

二七二三番

あまたあらぬ 名をしも惜しみ 埋れ木の 下ゆ
そ恋ふる 行くへ知らずて

二七二四番

秋風の 千江の浦廻の こつみなす 心は寄り
ぬ 後は知らねど

二七二五番

白砂 三津の赤土の 色に出でて 言はなくの
みそ 我が恋ふらくは

二七二六番

風吹かぬ 浦に波立ち なかる名を 我は負へる
か 逢ふとはなしに